

TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

2023.08
Vol. 6

飯田文化会館

ニュースレター

TAKE FREE

どんな人が集まる？
どんな交流があるところ？

どんなことがしたい？

基本理念・活動を実現する機能、空間とは

第7回 飯田市新文化会館整備検討委員会

何を観たい？どんな環境(質)？
どんな部屋(空間)がある？



第7回 飯田市新文化会館整備検討委員会 基本理念・活動を実現する機能、空間とは

前回、「飯田らしい表現活動」について共有されたイメージ

- ①外からの文化を吸収し展開してきた背景 ②日常と文化とのつながり ③専門家とのつながり

今回のテーマは、「基本理念・活動を実現する機能、空間とは」。これまで委員会で出された右のキーワードを踏まえ

- ①鑑賞 ②創造 ③交流 について、飯田らしい機能や空間のあり方を議論しました。

今回、共有された意見

- 日常と結びついた機能性や空間性 …… 半屋外(公園・広場)、屋外的な空間
- 創作活動が起こるような空間性 …… 工房、ものづくり工房
- **大きな公民館** 「非日常的なホール」と「使い勝手のいいホール」のバランス

飯田ひろば

基本理念(仮) みんなが集い、創り 伝える 感動の飯田ひろば

キーワード

(みんなが) 集う

寄り合いの場
出会いの場
つながる場
幅広い世代の声が聞こえる場
多様性を認める場

創る

「みる、演じる、ささえる」
練習の場 学びの場
体験の場 楽しむ場
自主活動・自立的な場
文化を創造する場

伝える

文化を育む
人を育てる場
吸収し、継承し、発展させる力
発信する場

感動する

発表の場
感動を与える場 感動する場
心を満たす場
本物に触れられる場
感性を磨く場

大会 講演会 研修会
初心者向け公演
誰もの居場所に
実行委員会(飯田方式)

創造活動
創作
自主事業
ワークショップ

伝統芸能の伝承
運営ノウハウの継承
活動を通じた人材育成
広報・情報発信

音楽公演 人形劇公演
演劇公演 ほかに芸能公演
(観客・出演者の感動)
(運営スタッフの感動)

交流

- どんな交流があるといい?
- どんな人が集まる?
- どんな部屋(空間)があるといい?

創造

- どんなことがしたい?
→ どんな部屋(空間)がある?

鑑賞

- 何を観たい(ジャンル)?
→ どんな環境(質)で?

求められること

意見交換

基本理念・活動を実現する機能、空間とは?

委員が5つの班に分かれて、具体的に議論を深めました。

メインとサブの複数のホールが必要。
各ホールの専用性、汎用性を
どのように作っていくか。

何をどう観たい・聴きたいかの
ニーズ重視で考える視点が必要であり
飯田らしさは、創造的な機能・活動から
生み出していく視点が重要。

それぞれ他ジャンルにも対応できる
多様性を備えたものが良いのでは。

普段、文化芸術に触れていない人に
どうアプローチするか。

舞台を見るだけでなく
「体験する」ことも
キーワードとして大きい要素。

飯田らしさを求めたとき
「ファブラボ」=ものづくりの工場の
ようなものがあたらうか。

幕間に感想を言い合ったり
演奏者と聴き手が演奏の後に
交流できるような場所があると
もっと豊かな時間が生まれるのでは。

アーティスト・イン・レジデンス※も
考えていきたい。
作品の制作過程が観られることで
関心がより高まるのでは。
※各種のアーティストを一定期間ある土地に招聘し、
その土地に滞在しながら作品制作を
行ってもらふ事業のこと

1 鑑賞

市内を見渡した時に
何ができていないのか。
それがホールとしての
「新文化会館」の役割になるはず。

練習場所でもあり、小中学生の
音楽発表の場所になってほしい。

絵を描いたり、いわゆる
「ものをつくる文化活動」もある。
そういう人たちに対する機能も
考える必要があるのでは。

会議室のようなものは極力少なくし
芸術活動に特化し
文化会館でしかできないような部屋を作る。

エントランスやロビー、中庭など
「広場」のような
オープンなスペースが
できるといい。

3 交流

表現活動ができる広いスペースを
中心に配置して
周りであらゆるながら見られる。
その周りに「ホール」「スタジオ」
「情報交換ができる場所」
コーヒーやワインが飲める「カフェ」や
「ストリートピアノ」があってもいい。

聴く人にとって快適な
ゆとりのある空間、施設に。

いずれは、多くの市民が
何らかの表現者になれたら。

メインホールの舞台と同じ広さの
リハーサル室が必要。

2 創造

ホールの敷地内に
「日常生活と重なる部分」が欲しい。
敷居の高い芸術劇場ではなく
「でっかい公民館」という感覚の場所が
飯田の人にとっては大事。

アーティストが来ることによる
外からの交流と
完成した作品を持ち回ることによる
外への交流が生まれる。

外から文化会館の賑わいが見えたり
文化会館そのものを外から見たりしたとき
ステージのような賑わいを作り出していることが
視覚的に見えるといい。

四角い部屋でいろいろなところに
ステージができる部屋が
あってもいいのでは。

足を踏み入れるきっかけになる
場所としてあるべき。

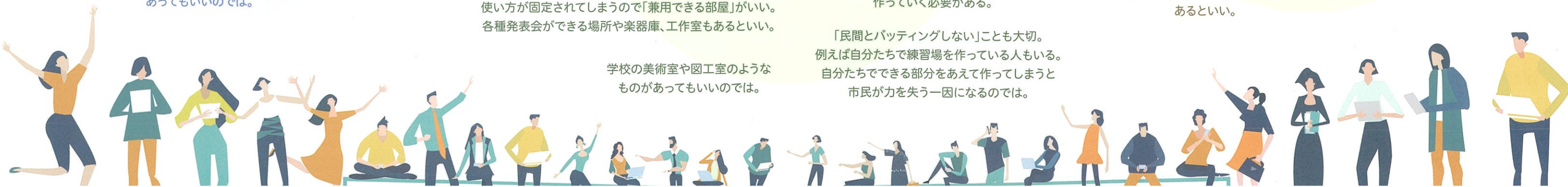
文化会館に来ないとできないような
体験の機会があれば、
住民のクリエイティビティが広がるのでは。

デザイン優先で実際は使いづらい
ということにならないよう
各分野の方たちの意見をきちんと取り入れて
作っていく必要がある。

ストリートパフォーマンスなど
予約しなくても自由に使える場所が
あるといい。

個別にスタジオ、リハーサル室を作ると
使い方が固定されてしまうので「兼用できる部屋」がいい。
各種発表会ができる場所や楽器庫、工作室もあるといい。

学校の美術室や図工室のような
ものがあってもいいのでは。



学識委員からのコメント

飯田市では多様な芸術文化が
定着、発展、継承されていることを実感

おざわ おうさく
小澤 櫻作 学識委員

機能・空間という視点から、飯田市では多様な芸術文化が定着、発展、継承されているということを改めて実感した。

これまでに発展してきた文化をしっかりと視野に入れることで必要な機能が具体的に絞り込まれてくる。今後、設計が進んでいく中でも、ここまですイメージしているものがあるからこそ、逆にデザイン側の方々の意見を加味して具体的なアイデアを持って提案していくことができると思う。

今後、建築スタッフなど新たなメンバーが参画する際、意見を交換して飯田の文化がさらに花咲いていくような施設ができてきたら良い。



創作活動や日常的な交流が生まれる空間が
まさに「大きい公民館」というキーワードになる

ささき ひろゆき
佐々木 宏幸 学識委員

「日常と結びついた機能性や空間性」が多くの意見に共通していると感じた。印象に残った言葉が「大きい公民館」という日常性。メインホールとサブホールのような構成はほぼ共通の意識として持っているが、全体として大きい公民館的な

日常性は面白い。また、「工房」「ものづくり工場」といった空間としてはニュートラルだけど、そこで創作活動が起こるような空間性が、今までの議論の印象と私の中で非常によく繋がった。

日常的に作っていくという意味でのアーティスト・イン・レジデンスというのも着目されている作り方。また、公園や広場など半屋外、屋外的な空間も日常と結びついた機能性や空間性に繋がり、学生が利用する想定も日常との結びつきという部分に繋がっている。

そうしたものを空間として作っていく際、外から見る事ができる、触れられる、共有するなど、日常的な交流が生まれる。そのような空間がまさに「大きい公民館」という全体を括る一つのキーワードになる、という印象を持った。



「非日常的」「使い勝手の良さ」両面を備え
皆で共に活性化していけるような施設に

やまもと ひろし
山元 浩 学識委員

文化会館は「大きな公民館」という話をした。決して豪華である必要はないと思う。ただ、このホールはどういう目的で活用されるかなどある程度の主目的を持ちながら、一方で多機能な部分を持つ必要もある。

自治体が公立のホールを作るということは、設備的に差別、区別化できる形が必要であり、民間の皆さんの力を失うことなく、共に活性化していけるような施設であるべき。

いいホールは決して豪華である必要はないが、お客さんから見ると「非日常的なホール」でもあるべきで、若干そういう部分は必要。しかし、裏では豪華感を追わず使い勝手がいいホールにするべき。飯田の皆さんは両面をご存知なのでそのバランスを考えて具体的な話を進められたらと思う。



傍聴した明治大学学生のコメント

飯田の皆さんは芸術や文化に精通されているというのが率直な感想。だからこそ文化会館が表現できる機能を持つと同時に、色々な人に広く知れ渡る場所になればいい。

自分たちの日常の出来事や習慣を、どのように空間に繋げていけるかという議論が新鮮だった。



飯田のいいところは人の温かさや文化の多様性だと思う。そういうものが現れる文化会館になればいいな。

文化会館という一つの施設を作るのにあたり、様々な分野の方が意見を出し合っていることに驚いた。

